

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン

代表者・役職名 氏名 代表理事 栗原英文

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

災害時に要援護者を助ける災害食普及・啓発プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年6月設立。会員数23人。フィリピン・タイ・日本(宮城)・カンボジアにおいて、アジアの子どもたちが元気で幸せに成長できるコミュニティ作り(Community for Children)を応援しています。そして将来、自分たちの社会に貢献する人に育ってくれること(Children for Community)を目指しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

2014年度「災害時に要援護者を助ける災害食」を開発するプロジェクトを立ち上げ、本助成金を活用させていただきながら、災害食メニューや防災食育ゲームの開発に取り組んできました。「昨年度の取り組みを『きっかけ』としてとらえ、さらなる普及啓発に取り組んでいきたい」という県内各地の方々や、「全国各地で起こりうる災害に備えていくために、宮城からの教訓を伝えてほしい」という県外の地域防災実践者の声を受け、この取り組みを2015年度も継続・発展させていきたいと考えました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

◆2014年度活動地域における普及・啓発活動の継続・発展
角田市では北郷児童センターにおける料理教室の開催と(10/28:35人参加)、地域防災研修会における試食とレシピ配布を実施しました(2/26:76人参加)。
柴田町では防災食育ゲームの体験会を大人対象に実施し(7/13:12人参加)、参加者にサポーターとなっていて、子ども向けのゲーム体験および災害食の調理・試食会を実施しました(7/27:23人参加、8/5:34人参加)。
◆宮城県内における普及・啓発
名取市みどり台町内会の防災訓練にて、非常食のアレンジメニューの試食とレシピ配布をしました(10/10:約100人参加)。
◆他地域における東日本大震災からの教訓の発信
北海道士別市において、中高生を対象に防災食育ゲームの体験および災害食の調理・試食会を実施しました(11/7~8:14人参加)。
大阪府茨木市において、府内の大学生を対象に、地域防災・災害支援についての勉強会を開催(1/24:17人参加)。宮城の大学生をゲストに招き、活動報告をしていただきました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

◆角田市の児童館における料理教室は毎年定員をオーバーする参加があり、参加者とその保護者、先生方からも好評をいただいています。試食会の参加者からも「自分の地域で開催してほしい」との声をいただき、更なる防災意識の高まりを感じています。

柴田町においては地域の方々から協力をいただき子ども向けイベントを実施できたことで、より地元根差す取り組みとなりました。

◆名取市みどり台町内会の防災訓練においては、試食やレシピを子どもが保護者に渡したり、保護者が非常食について尋ねてこられる場面もあり、親子で楽しみながら防災を学ぶ機会を提供できました。

◆土別市や茨木市では、中高生・大学生が地域の大人と一緒に防災について学ぶ機会を提供し、地域防災の担い手の育成・拡大の一端を担うことができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2016年度、角田市では、引き続き別児童館において料理教室を開催することとなりました。柴田町では、食生活改善推進員を対象とした防災食育ゲームの体験と災害食レシピ集の作成に取り組みます。

今後は県内外で、地元の関係機関と連携しながら、防災食育ゲームを活用した災害食レシピ集の作成に取り組んでいきたいと考えています。社会福祉協議会をはじめとする地域団体とのネットワークはあるものの、障がい、高齢者、アレルギーなどの食に関する工夫・配慮が必要な方々との直接的なつながりがまだ弱いと、今後は当事者団体ともよりつながりを強め、連携の可能性を模索していきたいと考えています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

宮城の学生と一緒に考えよう！

福祉・防災学習カフェ in おおさか

いばらきの災害・防災について、 わたしたちにできること



災害は、いつどこでおきるかわかりません。
「そのとき」、学生には何ができるのでしょうか。

「もし茨木が被災したら？」

「日頃から地域防災力を高めるためには？」

宮城県から、東日本大震災後の復興支援活動や
地域防災活動に取り組む学生を招き、お話を聞
きながら、学生にできることを地域の皆さんと
一緒に考えてみましょう！

プログラム (予定)

※13:15～受付開始

13:30 開会

14:10 話題提供～宮城の学生から～

①わたしと震災復興支援ボランティア

東北学院大学 災害ボランティアステーション
学生スタッフ 室井沙月さん (仙台市出身)

②大学での学びを活かした地域防災活動～食と防災

宮城学院女子大学 学生サークルFAS (Food and Smile!)
大内美幸さん・佐藤友里亜さん

15:10 茨木の災害・防災について、できることを考えよう！

話題提供者を交えたグループディスカッション

16:20 閉会



日時：2016年1月24日(日)

13時30分～16時30分

場所：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

(〒567-8570 茨木市岩倉町2-150)

※使用教室は、当日キャンパス内にてご案内いたします。

対象：IVUSA大阪茨木クラブ、立命館大学の学生、
キャンパス周辺の地域の方々など(30人程度)

主催：一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
<http://www.community4children.com/>

協力：IVUSA大阪茨木クラブ
宮城学院女子大学学生サークルFAS
東北学院大学災害ボランティアステーション
復興大学災害ボランティアステーション

助成：真如苑「市民防災・減災活動公募助成」

参加費無料

※参加申し込み先：